

北表之事、種々地走由候、  
甚以辛勞候、弥可被入精候、  
(良政)  
(一益)  
猶明院・瀧川可申伝候、謹言、

六月廿一日 信長(織田) (花押影)

徳山次郎右衛門殿(貞兼)

但折紙也、

北国之躰、度々被申越候、被入精候次第懇切候、  
猶々無油断聞届、可有注進候、小谷城之  
様躰定可相聞候、近々可為落居候、可  
心易候、委細市橋可申候、恐惶謹言、

七月廿五日 信長(織田) 御黒印

徳山二郎右衛門殿(貞兼)